



4月例会・バルーンフェスタWith長野マラソン、集合写真



山本知計君、近藤秀樹君、米山直樹君、大平郁久男君、松本章君、小山和伯君、赤塩光弘君、田村嘉邦君、青木理事長、下城聖一郎君、相澤会頭、山崎建二君

**飯山の地でー
会員拡大アカデミー**

五月二十四日みゆきの青年会議所の地で会員拡大アカデミー（「活気あふれる信州醸成委員会」田村嘉邦幹事、松本章君出向）・会頭講話・意見交換会がありました。

会員拡大アカデミーでは全国で深刻な問題になっている会員数縮小の講座を三

人のパネラーから聞き、例に二〇人入会しても卒業者とは別に一〇人の退会者があれば会員拡大には繋がらず、新入会員拡大と退会者を少なくする組織運営が重要だと話されました。また、相澤会頭の講話では熱のあるお話で今後の参考になったと思います。

**わんぱく相撲
長野場所**

五月二十三日オリンピックスタジアム土俵エリアで「わんぱく相撲」が行われました。わんぱく相撲では子どもたちの真剣勝負があり、本気で楽しむ姿や涙があり、メンバーも一緒にその場を共有できたこと嬉しく思います。

結果ですが、長野場所横綱になって八月一日の全国大会へ駒を進める選手は四年の部小山智仁くん（下水鮑）五年の部八木晃くん（朝陽）六年の部山内裕太くん（大豆島）です。

会員募集コーナー！

今しか会えない仲間がいる
今しかできないことがある
新しい仲間を募集しております！

お問い合わせ先：南長野青年会議所事務局
☎026-292-2310 E-mail: minaminaganojc@mtg.biglobe.ne.jp

5月例会 — 人とのふれあい委員会

五月例会

「南長野ボーリング大会」

人とのふれあい委員会（山本知計委員長）主催の五月例会「南長野ボーリング大会」が五月一七日にアルビコボウル篠ノ井で行われました。今日、南長野青年会議所も公益性のある事業が大半を占めるようになり、メンバーが休日集まり、交通整理や片付けをする姿が多く見られるようになり、事業の対象が対内から対外へと変わり、メンバーが楽しむ姿があまり見られなくなったように感じます。また、準会員や準会員候補者が参加するにしても、このような解りやすく楽しめる例会のほうが出来るように良い事業をおこなうためには、親睦を深め、円滑に事業をおこなえる体制を整えたいという委員長の思いが出ていました。また、準会員候補者の皆様にもたくさん来て頂き、会員拡大にも繋げていきたいと思ひもありました。メンバーの中には久しぶりのボーリングで感触を思い出しながらも楽しみ、良いレクリエーションになったと思ひます。

山本委員長コメント
五月例会として五月一七日（月）にアルビコボウル篠ノ井で「南長野ボーリング大会」を開催いたしました。メンバー同士の親睦を深める機会にはなりましたが、やはり公益性と結びつけるのは難しいと感じました。



2010年度
人とのふれあい委員会
委員長
山本 知計



例会告知

7月例会 — 2010青少年育成委員会

「チャレンジ！カヌー教室」

2010 青少年育成委員会が行う最終例会は「カヌー体験」です。せっかく日本一の川の近くに住んでいるのだから、ちびっ子たちに是非この川で豪快に川下り！と考えました。しかし、現実的？な制約条件が壁となり、流れのあまり無い所で→ダム湖で→信州新町（カヌーが盛ん）と、最適な場所が見つかりました。

当日はちびっ子が一生懸命にカヌーをこいでいる姿を見ることが出来るでしょう。大人もやってみれば面白い乗り物です。その昔、南太平洋の大海原をカヌーで渡った人類に夢を馳せながらカヌーの楽しさを体感しましょう！

8月例会 — 組織運営委員会

「公益法人制度改革を学ぶ」(案)

2013年には現状の社団法人は消滅し一般社団法人、公益社団法人のいずれかを選択しなければなりません。この制度改革により、今まで以上に社会における青年会議所の方向性が問われることとなります。

我々社団法人南長野青年会議所は「公益性」の追及を目指す法人として、また「明るい豊かな社会」の実現のために、責任ある行動でその役割をこれからも確実に果たしていき、確固たる位置づけをして行くべきだと考えます。

そのためにも当LOMの将来がどの方向に進むべきかを、会員1人ひとり自ら判断できるようになればと思ひ、今例会を企画したいと考えております。

8月通常総会

「2010年度第2回通常総会」

2010 年度も残り僅かとなり第2回総会後は次年度も動き出します。メンバー各自が同時に動いていかなければいけない中、連絡を密にとりモチベーションを上げてより、一致団結しなければいけないと考えます。

9月例会 — 人とのふれあい委員会

「人とひととのつながりを育む事業」(案)

9月例会は「人とひととのつながりを育む事業」をテーマに考えています。携帯電話やインターネットの普及により、人とひととのつながりは確実に薄くなりつつあります。このままでは、利便性だけを重視した世の中になってしまうのではないのでしょうか。

人とひととのつながりの大切さをもう一度実感出来る例会にしたいと思ひます。

編集後記

四季の変化とともにようやく『かがり火』第2号の発行に漕ぎ着けることができました。メンバー一同の協力のもと、モチベーションを維持しながらの制作でしたが、次の第3号の発行(10月予定)もがんばっていきますので、ご期待ください。

組織運営委員会 宮下 嘉文

二月例会

目指せ夢の六七名へ

魅力ある会員創造委員会（小山和伯委員長）主催の二月例会「会員拡大作戦会議 目指せ夢の六七名へ」が二月一五日長野市商工会議所篠ノ井支部二階で行われました。

近年、二〇〇七年度の会員数五四名から減少し四六名の現状化にあります。このまま行けば五年後には二名と活動内容が制限され、一〇年後には四八年間活動した南長野青年会議所が解散の危機になる現状を委員メンバーが発見しました。また、当時の会員拡大委員長を担当した二〇〇七年度理事長小坂浩一先輩を

お招きし、当時の様子を伺いました。

当時は候補者リストを本年度見込み・次年度以降見込みなど分けて情報収集し、一人で抱えないで全員で条文共有をしていた。そのリストを元に委員長・委員メンバーの連帯で情報交換し、時には勧誘の仕方を見直してみたりして毎日送信していたメーリングの火を消さないよう動いていた様子を伺いました。

また、本年度は新たな試みとして、迷っている候補者も巻き込んだの公開型ビジネスセミナーなどの開催を予定しています。



小坂浩一先輩をお招きしての講義



2010年度
魅力ある会員創造委員会
委員長
小山 和伯

小山委員長コメント

二月例会は「会員拡大への意識が高まり、やるべき事が明確になってとてもよかったと思います。入会されたばかりのメンバーも資料を持ってきたりして真剣に参加してくれたのが印象的でした。

3月例会 — 国際交流委員会

三月例会

「おらがまちのスポーツクラブ」

AC長野パルセイロ体験会

国際交流委員会（金児哲哉委員長）主催の三月例会「おらがまちのスポーツクラブ」AC長野パルセイロ体験会が三月二七日南長野運動公園で行われた。

午前中はオリンピックスタジアム内会議室でAC長野パルセイロ運営本部取締役 役田善行様を講師と迎えJリーグ構想のビデオを見ましてからお話を伺いました。

当時は、一日働いてクラブ費を払い、遠征費を出していた。北信リーグまでチャレンジ出来ただけで達成感があった。県リーグまでいくとある一定の充実感・満足感があり、このレベルでいいかなと自分たちで線を引きつづけていた。しかし、現状維持をしているとどんどん衰退していき、成績が二位、三位になり六位に落ちていきました。立ち上げて五年もなるからもういいかなという空気がながれた。

その時、帝京高校で全国大会優勝した副キャプテンが東京から転勤で帰ってきて移籍した。一人の選手が入り、練習内容がガラッと変わった。そうすると選手の気持ちもかわり、一九九六年北信リーグに昇格した。レベルが上がるとまた悪い癖が出てこのくらいでいいかなと満足していた。落ちなきやいいや、入替戦で九位（当時一〇チーム）でもいい。そしたら一〇位になり、入替戦どころか自動降格になり県リーグに一度落ち、学んだことを思い出し、現状維持ではなくチャレンジするチームになろうとチーム強化していった。

二〇〇二年には北信リーグ初優勝。初めて全国の壁に当たりチームではなくクラブとして組織だった地域の方にお世話になりながら大きくしていかなければ上に進んでいけない。それと同時に地域の子供たちの育成を始めて当チームが上にいったころに、子供たちが育ってきた入り、現役を引退した時に指導者。こういうスパイラルを作っていくかなければ、「おらがまちのおらクラブ」にはなっていないだろうと考え育成と共に、チーム強化の組織



2010年度
国際交流委員会
委員長
金児 哲哉

金児委員長コメント
この例会は委員長のわがままを形にさせていただいた面が多分にあります。地域の団体や施設と今後どう関わっていくかを考えてもらうきっかけとしてメンバー各位に対しての投げかけは達成できたのではないかと思います。ありがとうございました。

「クラブと地域社会のパートナーシップ」子供たちは、週末、気の合う仲間や家族と一緒に、熱狂と興奮が渦巻くスタジアムへ足を運ぶ。そこには、一つのボールを追って激しく戦う憧れの選手がいる。隣には大声で応援する近所のお兄さんがいる。気が付けばパパも叫んでいる。僕も真似をしてみた。でも僕、本当は応援じゃなくて、いつかこのスタジアムでサッカーをしたいんだ！

「資金の流れ」を明らかにする、いわば企業の血液の流れを明確にすること知り、テキストを交えながらお話を聞きました。大変勉強になるお話で自分の会社の決算書でキャッシュフローに置き換えて見直すのも今置かれている現状把握に役立つと思います。

「資金の流れ」を明らかにする、いわば企業の血液の流れを明確にすること知り、テキストを交えながらお話を聞きました。大変勉強になるお話で自分の会社の決算書でキャッシュフローに置き換えて見直すのも今置かれている現状把握に役立つと思います。

四月例会

「バルーンフェスタwith長野マラソン」

2010青少年育成委員会（伝田景光委員長）主催の四月例会「バルーンフェスタwith長野マラソン」が四月一八日南長野運動公園で行われた。今回で三回目の長野マラソンとの関わりとなり、長野マラソンを盛り上げる、地域社会の発展の一因となる事業として行われました。

当日は風も無く晴天に恵まれ長野マラソン観客とともに多くの人が朝早くから列をなし、気球搭乗を今かと待ち望んでいました。八時には佐久熱気球クラブ様が到着し、バーナーで気球を膨らましている所を子供たちが目を輝かせ見つめていました。当初一一時までの搭乗予定でしたが、一〇時くらいから風が吹き出し危険の為中止となり、本当に残念でしたが、委員長の願いであった「実際に体を動かして、嬉しさ、おもしろさを体験する」が実現できました。



バルーンフェスタ・熱気球搭乗係留体験



2010年度
青少年育成委員会
委員長
伝田 景光



伝田委員長コメント
オリンピックスタジアムで熱気球を上げてみたい！と思ったのが今から一年半も前の事。こういう事ができるのはJCIしか無いと確信し、時がくるのを待っていました。頭の中では何回も大きな熱気球に子ども達が乗り高く高く上がっていく風景を想像しながら計画を練っていきました。長野マラソンと同日開催という機会も得てがぜん気合いが入りました。天気、集客、内容など心配される声は多々ありました。しかし不思議と最後までうまく行く気がしていました。執念深さが勝因か？！当日の早朝、起き抜けに空を見上げて一

人でガッツポーズ。最後は天気も味方につける事ができました。メンバーのみんなも計画にしっかりと乗ってもらい、大仕掛けな例会と成りましたが無事成功する事ができました。感謝！もちろん、全てがうまく行ったわけではなく「風にストップをかけられました……。安全第一で行う事が絶対条件でしたので、条件どおり例会は繰り上げて終了という事になりました。残念。最後にゴール付近で飛ばした五〇〇個の風船の行方が気になっています。ちゃんと目的の地！？まで届いたかな。

4月JC鳳雛セミナー — 魅力ある会員創造委員会

四月JC鳳雛セミナー

「よくわかるキャッシュフロー」

魅力ある会員創造委員会（小山和伯委員長）主催のセミナーが四月二三日JAGグリーンパレスで行われました。セミナーの目的とし、現在の自社の状況把握をもう一度見直し、事業拡大の一助としていただくことを目的とします。また、拡大事業で好感触の反応があった方々に南長野青年会議所が次世代のリーダー達の集まりであることを認識していただき加入への決意を促進させることを目的として、講師に中小企業診断士金丸修一先生をお呼びし、キャッシュフローの勉強を会員候補者・一般者を交え勉強しました。



キャッシュフロー講演会・講師金丸修一先生

小山委員長コメント
四月セミナーは「久しぶりの実戦的というか技術的なものに焦点を絞ったビジネスセミナーでしたが参加された方が黙々と計算している場面もあり、とても有意義な時間だったと思います。」

